

「税金ってなんのためにあるの？」

落井 良行

私は最近、税金は「未来のために使われる大切なお金」だと思うようになりました。しかし、それに気づくまでには、自分の中でいくつかの疑問に感じた体験がありました。

小学六年生の夏休みから私はいままでほしいものがあつたら親に買ってもらっていましたがお小遣い制に変わり、近所のコンビニでアイスを買った時のことです。値札には百五十円と書かれているのにレジで払ったのは百六十五円でなんで高くなるのか驚いてレシートを見ると、「消費税十五円」と書かれていました。なんとなく消費税のことは知っていましたが、実際に自分で支払ったとき、どうして税金を払わなければならないのか疑問に思いました。その日の夜、家で消費税について調べてみました。すると、消費税はただ国が取っているお金ではなく、様々な目的で使われていることが分かりました。たとえば、年金や医療、介護など高齢者を支える制度のために使われたり、学校の設備、道路の整備などにも使われていたことを知り、すごく驚きました。今まで商品は親が買っていて気づきませんでしたでしたが、損をしていると思っていた消費税が実は私たちの生活を守るために使われていると感じて考え方が変わりました。

また、税金の使い道として話題になっているのが「大阪万博」です。今年、その準備が進み、国の税金が多く使われていると聞きました。ネットやテレビでは「無駄遣いだ」とか「別のことに税金を使うべきだ」という意見も多く見かけます。正直、私も最初は「そんなにお金を使って大丈夫なのかな？」と思っていました。でも、学校の授業や先生の話、ニュースなどから、大阪万博がどんなイベントなのかを知っていくうちに、考え方が変わってきました。大阪万博は、「いのち輝く未来社会」がテーマで、世界中から最新の技術やアイデアが集まる場所になるそうです。たとえば、ロボット技術や医療の進歩、環境を守るための新しい取り組みなど、未来の生活を支えるヒントがたくさん展示されていると聞いてワクワクしました。世界中の国や企業が日本に集まり、交流や学びのきっかけになるのなら、そこに税金が使われるのは決して無駄ではないと感じられました。

税金というと、「損するもの」と考えてしまいがちですが、税金の使い道を知ることによって、その大切さが見えてくると思います。消費税のように、日常で実感できる税金もあれば、大阪万博のように大きなイベントや施設の整備など、一見分かりにくい使い道もあります。しかし、どちらも私たちの生活や未来に関係しているということを忘れてはいけないと思います。これからは買い物をするときも、「この消費税はどこで役に立っているのだろう」と考えるようにしていきたいです。そして、将来は、税金をしっかりと納めて、社会の一員として責任を持てる大人になりたいと思います。